グラスバレー 放送局向けビデオ編集製品に Acronis Cyber Backup（OEMライセンス）をバンドルし、マスターイメージの作成・展開、バックアップに活用

Acronis Cyber Backupで、製品製造用マスターイメージや、工場出荷時リカバリーイメージを作成、顧客環境のバックアップにも利用していきます。

事業の概要

グラスバレー株式会社（以下、グラスバレー）は、カナダモントリオールに本社を置く世界最大の放送・映像関連機器メーカーGrass Valley社傘下でビデオ編集製品を開発しています。Grass Valley社は世界の80%以上の放送局などで使われる様々な放送・映像機器を各国の拠点で開発。その中で日本のグラスバレーは、編集システムに特化して、ビデオ編集ソフトウェア、ソフトウェアとハードウェアを組み合わせたターンキーシステム、ビデオディスクレコーダーなどを提供しています。

ビデオ編集システムはニュース映像を中心に放送局の編集者が編集室で利用するため、運用に耐えうる高いパフォーマンスと静音性、低消費電力、そして信頼性が求められます。そのために、グラスバレーではWindows PCをベースに高速のCPUとGPU、SSDやHDDを組み合わせた専用製品を開発しています。「製品には、『HDWSシリーズ』をフラッグシップモデルに、OEM提供のWindows PCに専用ハードウェアとソフトウェアを搭載した『REXCEED Desktop』、『REXCEED Laptop』があります。中でもHDWSシリーズは国内の多くの放送局で利用され、REXCEEDは放送局に加えてCATV局や映像制作会社などで使われています」とグラスバレー代表取締役 竹内 克志氏は語ります。

ビジネス上の課題

HDWSシリーズの製造用マスターイメージは、グラスバレーの開発部門の開発機で、バックアップソフトを利用して作成し、それをDVDなどのメディアにコピーして、製造委託工場で、製品に展開します。製品は1台ごとに設定が異なるため、設定作業を行った上で、工場出荷時のリカバリーイメージを作成、それを本体に内蔵された組み込み用USBフラッシュドライブにバックアップします。

工場から出荷されたHDWSシリーズはシステムインテグレーターで納品される放送局向けに他の機器とインテグレーションするなどの環境設定を行った上で納品されます。その際、インテグレーターは顧客環境のイメージバックアップを取り、稼働開始後、放送局でもバックアップを取ります。「放送局では昼夜を問わず、ニュースの編集作業などでHDWSを使って

業種・業態
放送映像機器製造業

主な課題
- バックアップソフトのサブスクリプション化による利用方法変更の解消

主な要件
- 永続ライセンスによる従来通りのバックアップの実施

ITインフラ
- Windows環境

主なメリット
- 製造用マスターイメージの作成・展開と工場出荷時のリカバリーイメージの作成
- 納品先の顧客環境バックアップと納品先での日々のバックアップの実現

Copyright © 2002-2022 Acronis International GmbH.

います。稼働中、万一障害が起きても、発生前の状態に復元できるように、様々なイメージバックアップを取っています」とグラスバレー R&Dプリンシパルエンジニア 山下 健二氏は説明する。

ソリューション

グラスバレーでは、2021年10月に発売する計画で、HDWSシリーズの最新モデルとして、4K対応ノンリニア編集ワークステーション「HDWS 4K3 Elite X」と「HDWS 4K3 X」の開発を進めてきました。ところが開発途中に従来使っていたバックアップソフトがサブスクリプションに移行することが明らかになりました。バックアップソフトは製造用マスターイメージや工場出荷時リカバリーイメージの作成などグラスバレー側だけではなく、納品先でのイメージ復元、顧客環境のバックアップなど様々な場面で使用されます。従来のバックアップソフトを継続して使うには、お客様に改めてバックアップソフトの販売元とサブスクリプション契約をしていただかなければなりません。従来放送局などはHDWSを設備として購入し、バックアップはその機能として提供されてきましたが、同じ形では使えなくなってしまいます。加えて、顧客側での契約が複雑化することでグラスバレーのサポートにも支障をきたしてしまいます。「例えばストレージに障害が発生して交換し、納品時のイメージで復元をしようとしても、顧客がサブスクリプション契約をしていなければ、グラスバレー側でバックアップソフトを使うのが難しくなります」（山下氏）。

「永続ライセンス版で、放送局に
今まで通りのバックアップの
仕組みを提供することができます」

グラスバレー株式会社
代表取締役
竹内 克志 氏

「製品の複雑なドライブ構成などの
問題に対して、丁寧にサポートして
いただき、感謝しています」

グラスバレー株式会社
R&Dプリンシパル
エンジニア
山下 健二 氏

そこで、グラスバレーでは永続ライセンスで利用できるバックアップソフトを探し、アクロニスのバックアップ/データ保護ソリューション「Acronis Cyber Backup（現Acronis Cyber Protect Backup）」のOEMライセンスを採用することにしました(OEM契約において永続ライセンスの選択が可能であるため)。Acronis Cyber Backupは、海外のGrass Valley社で、PCアーキテクチャを利用した製品の開発で活用してきた実績がありました。そこで問題なく利用することができていると評価されていたため、導入を決めました。

HDWSシリーズは一般的なPCとは異なり、システムドライブはSSDをRAID1で構成し、ミラーリングしています。またデータドライブはHDDやSSDを8個使い、RAID50で構成しています。加えて、出荷時のイメージとAcronis Cyber Backupがインストールされた組み込み用USBフラッシュドライブを内蔵し、障害発生時の復元を可能にしています。

「複雑な構成になっているのは、冗長性と高速処理を確保するためです。放送局にとってデータは極めて重要なので、HDDやSSDが壊れても運用できるようにしなければいけません。また4K、8K編集で、高速処理が求められるようになっているため、ディスクをパラレルで使いつつ、RAID50で処理速度を上げています」（山下氏）。

こうした複雑な構成のため、開発初期にはAcronis Cyber Backupでドライブが認識されないなどの問題がありましたが、アクロニスとのやり取りを積み重ね、10月の発売に間に合わせることができました。

効果と展望

Acronis Cyber Backupがバンドルされたは HDWS 4K3 Elite XとHDWS 4K3 Xは2021年10月に発売され、以降次々と製造され、様々な顧客へと納品されています。HDWSの生産における製造用マスターイメージの作成や展開にかかる時間はAcronis Cyber Backupを使用したことによって、従来の約半分ほどになり大幅に短縮されました。また、顧客環境のバックアップには現在はWindowsバックアップ機能が使われていますが、今後Acronis Cyber Backupに切り替えて行く計画です。

その上に、グラスバレーではHDWSシリーズのみならず、現在Acronis Cyber Backupをまだ使用していないREXCEED DesktopやREXCEED Laptopにも、モデルチェンジに合わせてAcronis Cyber Backupを採用する予定です。

Acronis

詳細はwww.acronis.comをご確認ください。

Copyright © 2002-2022 Acronis International GmbH. All rights reserved. AcronisおよびAcronisロゴはAcronis International GmbHの登録商標または商標です。Windowsは米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。記載されているその他の名称は、各所有者の商標または登録商標である可能性があり、そのような可能性を考慮して扱う必要があります。技術的な変更および図との差異が生じる可能性があり、誤りが含まれている可能性があります。製品仕様は改良のため、予告なく変更になる場合があります。2022-03